

武蔵野大学国際総合研究所「第44回 EU 研究会」議事録

- 開催日：2019年10月21日
- 会場：武蔵野大学有明キャンパス会議室
- 基調報告：森本 学（日本経済新聞社編集局国際部次長）
- テーマ：「Brexit の行方と EU の展開」

基調報告：「Brexit の行方と EU の展開」

1. 英政治は「10月末離脱」へ政権・議会の攻防へ

- ・英国の当面の重要日程
 - 10/17（木）英・EU が離脱協定案（付属文書）と政治宣言案の修正で合意。
 - 10/19（土）英議会、新離脱合意案の採決先送り（Letwin 修正動議）。
 - 10/21（月）英政府、英議会にEU離脱関連法案を提出へ。
 - 10/31（木）英国は23時にEU離脱期限を迎える。
- ・来週臨時EUサミットで離脱延期を協議するのか？

2. 英国内の離脱を巡る状況

- ・英議会は10月19日、新離脱案の採決を先送りする修正動議*を可決。
- *Letwin 議員らが提案した修正動議：離脱関連法案の成立まで、審理脱案の承認を保留。10月末の「合意なし」離脱を阻止する保険策と説明される。
- ・賛成 322 票（DUP、前ハモンド財務相らも） vs 反対 306 票。

3. ジョンソン英首相の離脱戦略

- ・「10月末までに必ず離脱する」と主張。
- ・10月末離脱の実現（含む短期延期）で総選挙での党勢回復を目指す。
- ・支持者は新合意案の中身よりも「10月末離脱」の約束を重視。
- ・長期延期を余儀なくされればジョンソン首相には打撃になる。

4. 英離脱協定案の行方

- ・今、英・EU の新離脱案を採決すれ可決の勢いか。FT 予想では賛成 320 対 反対 315。ガーディアン予想でも賛成 320 対 反対 317。
- ・10月21日の英議会で英政府は、①19日に採決先送りした新離脱案の meaningful vote の再提案、②離脱関連法案の提示・早期成立へ審議加速狙うだろう。
- ・野党は修正案で対抗か？労働党が DUP や元保守党の独立系議員と連携を模

- ・世界の中の強い欧州：自由貿易を推進。英離脱協定案は最良で唯一の合意。欧州防衛同盟を推進。
- ・欧州の民主主義の促進：欧州議会の機能強化。偽情報やヘイトスピーチ対策の強化。

質疑応答およびディスカッション

■ 離脱交渉のかなり早い段階から、メイ政権は金融の単一パスポートを断念した。なぜ金融サービスをあんなに早く放棄したのか？

金融を含めてサービスと人の移動は密接不可分なので、金融の単一パスポート維持しようとする、人の移動についてもイギリス側が認めなくてはいけなくなる。Brexit のもともとの出発点が移民問題だったので、金融を含めサービスの部分の移動の自由を止めること自体は、当時の優先順位としては仕方なかった。

■ 北アイルランドの問題については今後どうなるのか？

9月に示した案では、国境には関税など何も置かないようにするといった案だったが、今回の案ではイギリス本島とアイルランド島の上に線を引くというのが最大のポイントになっている。

今回の案は北アイルランドを切り離れた側面がかなり強く、それがひいてはスコットランドにも波及していくのではないかと懸念されている。

■ 仮に何とか合意あり離脱をしたとしても、移行期間が来年の終わりまでなので、それまでに FTA が結べないと結局そこで崖がある。離脱協定があれば EU 市民の権利などの問題は担保されるかと思うが、日本企業が非常に気になる関税や規制の話は、仮に合意あり離脱でも引き続きリスクがあるということか？

関税だけの話であれば、現状が関税 0 というベースで、そこから増やすことになる。基本的な合意ができていれば、関税 0 を目指して減らしていくパターンよりは技術的には容易なのではないか。但し原産地規則などの部分は議論になるだろう。